

今月のさがあお豆知識

NO.57

犬も人間と同様に歯周病になりやすい事をご存知でしょうか？

近年、人間の歯周病菌が内臓の病気の原因になる事が知られてきたため、ペットの歯周病への関心も高まってきています。ここでは犬の歯周病についてお話ししてみようと思います。



実は、3歳以上の大人の犬は、その80%が歯周病もしくはそのリスクがあるそうです。

犬は口の中が弱酸性～中性の人間と違い、弱アルカリ性であるため、酸性の環境を好む虫歯菌よりもアルカリ性の環境を好む歯周病菌の働きが活発になりやすいと言われています。特に、歯と歯の間が狭い小型犬は歯周病になりやすいといった特徴があるそうです。



歯石を取った後



症状 口臭がする、歯茎が腫れる、出血する歯がグラグラするなど人間と一緒にです。でも、犬は痛みを訴えないので、気付かないうちに重症化してしまう事が多く、ひどい時には歯根に溜まった膿が顔の皮膚に穴が開いて出てきたり、顎の骨がダメージを受けてしまう事も。

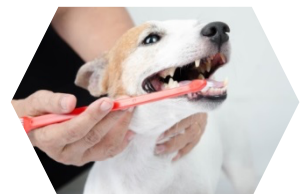
治療 歯石や汚れを取り除く
歯周ポケットの中も綺麗にする
グラグラな歯は抜く
悪くなった歯肉の部分を切除する事も。
これらの治療は全て全身麻酔下で行われ、高齢や疾患のある子には全身麻酔は危険なため、きちんとした治療ができない事も。

そこで、日頃のケアが必要になってきます。やはり、歯周病の予防と言えば、**歯磨き**です。

いきなりは無理なので、歯磨きに徐々に慣れさせる事が一番です。

少しでも嫌がるそぶりを見せたらすぐにやめ、気長に取り組む事が大切です。

できれば生後3～4ヶ月の頃から始める事がオススメです。



体調管理に歯周病ケアも加えて、ペットとのいい関係を保てたら素敵ですね♪(^o^)

